アジアキタドロバチ

Allodynerus mandschuricus Blüthgen
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅰ類　【環境省カテゴリー】―

選定理由

県内では 2 か所の生息地が知られる。今回は既知の生息地の 1 つと生息が期待される場所で調査が行われたが、本種は確認できなかった。既知の生息地は水害、シカの害や木の立ち枯れ等によって環境が著しく悪化しており、本種の生存も危機的な状況にある。

種の特徴

体長 9.0 ～ 10.5 ㎜。全身黒色で顔面に小さな黄斑を持ち、腹部第 1 節と第 2 節の後縁にそれぞれ 1 本の黄色の細い横帯斑紋がある。細い竹筒に巣を作る。メスの成虫は幼虫の餌として小型のガ類の幼虫を狩り集めると考えられる。

分　布

本州（埼玉、福井、滋賀、兵庫、島根、長崎県）で記録されている。県内では、おおい町頭巾山と敦賀市内での記録がある。今回の調査では、本種を確認できなかった。

生息を脅かす要因

樹木の伐採が進み、森林環境が変化すると餌となる小型のガ類の個体数が減り、本種の生存にも影響を及ぼす。

参考文献　福井県自然保護課（2002）、山元（2013）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○											

シモヤマギングチ

Ectemnius shimoyamai Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅰ類　【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

青森県で 2、栃木県で 1 、本県で 2、福島県で 1 個体の計 6 個体の記録があるのみ。今回確認されず、本県では 30 年以上記録がない。個体数の水準が極めて低く、絶滅の危機に瀕していると考えられることから絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。

種の特徴

体長はオス 8 ㎜、メス 10 ㎜。頭部が非常に発達した全身黒色のハチ。雄は複眼の内縁が強く下方に狭まり、これが属の特徴の一つとなっている。山地の落葉広葉樹林に生息し、枯木に営巣する。県内では 8 月下旬と 9 月下旬に成虫の採集記録がある。

分　布

本州（青森県、栃木県、福井県、福島県）で記録があるのみ。県内は大野市中洞と鳩ヶ湯で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。1983 年以降県内での記録はない。

生息を脅かす要因

ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹林の伐採、スギの植林。

参考文献　青森県自然保護課（2010）、福井県自然保護課（2002）、菊池（2014）、栃木県自然環境課（2005）、栃木県立博物館

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アギトギングチ

Ectemnius martjanowi (F. Morawitz)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅰ類　【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと奥越地方の山地帯の限られた地点で採集記録があったが、今回確認されたのは 1 地点のみ。県内の生存は危機的な状況にあると判断し、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。本県のほか、埼玉県でも減少が報告されている。

種の特徴

体長 9 ～ 14 ㎜。オスは大型になるほど大顎が発達する。腹部の黄紋が目立つ。北海道と本州に分布し、本州では山岳域に生息する。詳しい生態は不明。

分　布

県内では大野市小池、嵐、六本檜、勝山市法恩寺山、小原峠でこれまでに採集記録がある。このうち、今回本種が確認できたのは勝山市の小原峠 1 地点のみ。

生息を脅かす要因

山地の落葉広葉樹林の伐採等が脅威となる。

参考文献　福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、室田（2002）、埼玉県みどり自然課（2008）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	